



〈公開〉生と死に寄り添うⅡ

□会場 東洋英和女学院大学大学院
(六本木) 201教室
東京都港区六本木5-14-40

□最寄駅 六本木駅(日比谷線徒歩10分)
麻布十番駅(大江戸線徒歩5分、南北線徒歩7分)
□先着 100名様

□参加費 各回500円
本学院在校生・教職員無料
□事前申込み 不要

第3回連続講座

5月21日(土)

14:40-16:10(受付14:10~)

■プロフィール

東洋英和女学院大学人間科学研究科修士課程宗教学専攻修了。龍谷大学文学研究科修士課程及び博士後期課程仏教学専攻修了。博士(文学)。京都美術工芸大学専任講師および龍谷大学非常勤講師。専門は日本の仏教思想および仏教美術。

■主要業績

「五大明王を中心とする仁王経曼荼羅成立の背景」『仏教学研究』71号、2015年。「智慧と慈悲の観法阿字観の金胎本尊と台密の阿字観」『東洋の慈悲と智慧:多田孝文名誉教授古稀記念論文集』山喜房佛書林、2013年。ほか

鍵和田聖子

(かぎわだ せいこ) 京都美術工芸大学講師

仏教における成仏と往生

内容紹介:

日本語には思いもかけない仏教用語がたくさん潜んでいます。日本人は知らず知らずのうちに仏教用語を用いて会話をしているのです。「成仏」や「往生」も仏教用語ですが、単に「死」を表す言葉として使用されることも少なくないでしょう。ところが、仏教における「成仏」や「往生」は大変深遠な思想を背景としています。その思想のあり方を理解することは、よりよく生き、よりよく死ぬための大きなヒントとなるのです。本講座では、人生の最終目標としての「成仏」と「往生」の違いを比較しながら、その本来の意味をひもときたいと思います。

第4回連続講座

5月21日(土)

16:20-17:50

■プロフィール

2008年より順天堂大学医学部附属順天堂医院がん治療センター心理士。2012年 立教大学大学院現代心理学研究科臨床心理学専攻後期課程満期退学。2014年一般社団法人The Egg Tree House設立、代表理事。グリーフケアのための「たまごの家」設立を目指している。

■主要業績

「親を亡くした子との交流」『死生学年報2012』リトン、2012年。「ハワイ小児緩和ケア事情」『緩和ケア』Vol.23 NO.3、青海社、2013年。「小児がんサバイバーの治療後の身体的自己像と性について」http://archive.snhf.or.jp/archive_r/data/2014K_nishio.pdf

西尾 温文

(にしお あつふみ) 一般社団法人The Egg Tree House 代表理事

死別後の悲嘆に寄り添う

—エッグツリーハウスの活動から

内容紹介:

エッグツリーハウスは2012年春、ダギーセンターと一緒に研修に行った3人が2014年から始めました。モデルは1982年に設立されたアメリカのダギーセンターです。私たちはグリーフケアのプログラムをたまごの時間と呼んでいます。たまごの時間には2014年4月から2015年10月までの19回(内3回はグリーフケアキャンプ)に子どもが94名、大人が127名参加しました。また、他に月1回、16歳から35歳までを対象としたグリーフカフェを行っています。今、グリーフケアが求められる理由をたまごの時間に参加している子どもと保護者の言葉から考えたいと思います。

〈予告〉2016年7月23日(土) 連続公開講座「生と死に寄り添うⅡ」

第5回 片岡朝子「子どもにとっての死の体験—保育者の死生観との関連で」

第6回 渡辺和子「『ギルガメシュ叙事詩』における自然と人間」



お問合せ先

東洋英和女学院大学死生学研究
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp
03-3583-4035 (fax専用)